

製品名: hnRNP K (リン酸化 Ser284) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04790**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	HNRNPK
別名	HNRNPK; HNRPK; Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein K; hnRNP K; Transformation up-regulated nuclear protein; TUNP
遺伝子 ID	3190.0
SwissProt ID	P61978
免疫原	抗血清は、Ser284 のリン酸化部位周辺のヒト hnRNP K 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 250-299

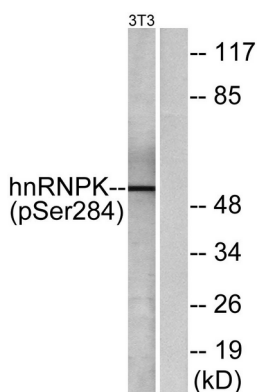
背景

この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP) のサブファミリーに属します。hnRNP は RNA 結合タンパク質であり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA のプロセッシングや mRNA 代謝・輸送のその他の側面に影響を及ぼすと考えられています。すべての hnRNP は核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は核質に位置し、RNA に結合する KH ドメインの 3 つの繰り返し構造を持っています。他の hnRNP タンパク質とは結合の好みが異なり、ポリ(C)に強く結合します。このタンパク質は細胞周期の進行中にも何らかの役割を果たしていると考えられています。いくつかの選択的スプライシングを受けた転写バリエーションは、機能: 主要な pre-mRNA 結合タンパク質の 1 つです。ポリ(C)配列に強く結合します。hnRNA の核代謝、特にシチジンに富む配列を含む pre-mRNA の核代謝に役割を果たす可能性があります。また、ポリ(C)一本鎖 DNA にも結合できます。質量分析: PubMed: 11840567, PTM: Arg-296 と Arg-299 はジメチル化されており、おそらく非対称ジメチルアルギニンになっています。類似性: 1 つの KH ドメインを含みます。類似性: 2 つの KH ドメインを含みます。類似性: 3 つの KH ドメインを含みます。細胞内局在: ASFV 感染の場合、局在が変化し、主に核内に局在します。サブユニット: RBM42 および ZIK1 と相互作用します (類似性による)。スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRPA1、HNRPA2B1、HNRPA3、HNRPC、HNRPF、HNRPH1、HNRNPK、HNRPM、HNRPR、HNRPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22 から構成されています。RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2、ZCCHC8。ANKRD28 と相互作用する。HCV コアタンパク質と相互作用する。ASFV p30 タンパク質と相互作用する。

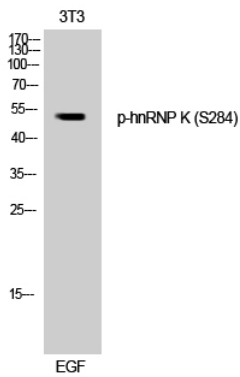
研究分野

スプライソソーム;

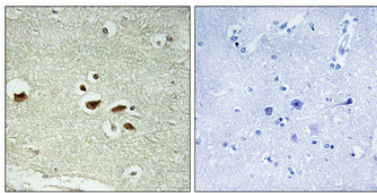
画像データ



EGF 200 ng/ml 30 μ L で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを hnRNP K (リン酸化 Ser284) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 hnRNP K (S284) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。